

IATIS 創立記念大会参加報告

鳥飼 玖美子
(立教大学)

IATIS (International Association for Translation and Intercultural Studies) 設立記念大会が、8月12日から14日までの3日間、ソウル市 Sookmyung Women's University(淑明女子大)において開催された。世界28カ国から200名が参加し、開会式にはユネスコ松浦事務局長からのお祝いのメッセージが紹介された。

6本の基調講演、80本を超える発表に加え、レセプション、淑明大学長主催の歓迎会、韓国太鼓の実演、夕食会など盛りだくさんのプログラムを堪能した後、大会最終日の総会には会則を承認、会長 Annie BRISSET (Univ. of Ottawa)、副会長 Mona BAKER (Univ. of Manchester) および Yifeng SUN (Lingnan University, Hong Kong)、執行委員長 Theo HERMANS (University College London) 等の役員を選出した。

IATIS は、既存の学会が地域的もしくは分野的に狭い範囲にとどまりがちであったことへの反省をもとに、世界中のさまざまな地域から多様な学問的背景をもつ研究者が集まり、翻訳・通訳と異文化コミュニケーションに関する研究を幅広く行うことを目的とし、数年前から設立の準備がなされてきた。

Annie Brisset 会長の挨拶では、本学会の設立目的が2点挙げられた。ひとつは、言語学の一分野、文学研究の一領域とみなされてきた翻訳・通訳研究を真に独立した学際的分野として確立すること。2点目は、これまで欧米中心になりがちであった通訳翻訳研究を世界規模に広げることである。

第1回目の大会を韓国で開催したことには、そのような意図と願いが込められており、今後も可能な限り、欧米以外の地域で大会を開催したいとのことであった。この点に関し、Mona Baker 副会長からは非公式に、いずれは日本でも開催して欲しい旨の希望が伝えられた。

TORIKAI Kumiko, "A Report on the 1st Conference of the International Association for Translation and Intercultural Studies."

Interpretation Studies, No. 4, December 2004, pages 177-180.

(c) 2004 by the Japan Association for Interpretation Studies

第1回大会のテーマは "Translation and the Construction of Identity" であり、基調講演もそのテーマに沿ったものが毎日2講演ずつ行われた。以下はその一端である。

- Juliane House, "Global English and the Destruction of Identity."
- Lawrence Venuti, "Local Contingencies: Translation and National Culture."
- Ian Mason, "Projected and Perceived Identities in Dialogue Interpreting."
- Jan Blommart, "The Untranslatables: Diasporic Language."
- Eva Hung, "The Gilded Translator: Issues of Authority, Control and Cultural Self-representation."
- Harish Trivedi, "The Culture of Translation and Postcolonial Identity."

Julian House は、翻訳研究のみならず言語学、応用言語学、語用論、談話分析等、幅広い活動で著名であり、最近は「異文化コミュニケーション」「国際共通語としての英語」に関する研究も精力的に進めており、講演では英語のグローバル性について鋭い考察を提示した。Ian Mason は、入国管理事務所における実際の通訳例を紹介し、Erving Goffman の "footing" を鍵概念として dialogue interpreting の事例を明快に分析してみせた。最終講演者の Lawrence Venuti は、Victor Hugo および Italo Calvino の英訳を具体例として取り上げ、翻訳が本質的に有する暴力性を明らかにした。講演後に Theo Hermans が反論を展開したが、それを受けて Venuti は改めて「すべての訳は本来 "domestication" であるがゆえに、あえて "foreignization" の意識を明確化することが特に英語への翻訳には重要である」と強調した。なお、Venuti に確認したところ、"domestication vs. foreignization" の原理は文学翻訳に限定する必要はなく、通訳にも当然、応用されてよいと考えている、とのことであった。

基調講演以外にも、翻訳におけるジェンダー研究では第一人者である Luise von Flotow (Ottawa University, Canada)、ポストコロニアル翻訳論で高名な Mahasweta Sengupta (Central Institute of English & Foreign Languages, Hyderabad, India)、日本およびアジアの翻訳史分野で精力的な研究を続けている Judy Wakabayashi (Kent State University, USA) 等が発表した。発表はテーマを設定してグループ分けし、4会場での同時進行とした。テーマは以下の通りである。

- Redefining Translation in the 21st Century
- The Politics of Interdisciplinary Research
- Empowering Research in Crosscultural Communication

- Translation and Gendered Identity
- Translation and the (De-)construction of National/Cultural Identities
- Translation and Ethnography
- The Verbal, The Visual, The Translator
- Teaching Translation: Global Challenges for the "21st Century
- Historical Perspectives
- Media Images
- Forms of Translation
- Cultural Representations
- Textual Perspectives
- Literary Perspectives
- Theorizing Translation
- Interpreters in the Court
- Rebuilding Identities
- Language and National Identity
- Negotiating Identity
- Translation and Global Economy
- Processes of Appropriation

鳥飼が司会を依頼されたセッションのテーマは、Media Images であった。韓国の若い研究者 Ji-Hae Kang (Hankuk University of Foreign Studies) による「韓国メディアによって作られる北朝鮮のイメージ」を critical discourse analysis の手法で分析した発表が秀逸であった。

今回の大会は、第1回ということで関係者の意気込みが並々ならぬものであり、会場校である淑明女子大学をはじめ韓国ユネスコ委員会、韓国翻訳協会などの支援が手厚いことが印象的であった。大会の様子はテレビで報道され、宿泊ホテルも大会歓迎の横断幕を掲げ、宿泊費を割り引くなどのサービスを提供した。会場とホテルが若干、離れているため、参加者は全員、毎日、大型バス2台で往復したが、朝食から始まりコーヒブレイク、昼食、夕食を共にしつつ終日、会議に出席していると、参加者同士で知り合い、情報交換をする機会も多く、非常に密度の濃い大会であった。本大会の記録は Conference Proceedings にまとめられると共に、一部は学会誌である IATIS Yearbook (編集担当は Juliane House) に掲載される予定である。

大会は原則として3年ごとに開催されるが、今回は香港での国際比較文化学会と日程が重なっており、そちらの学会も3年に1回の開催であるため、第2回は1年開催を早め2006年に南アフリカ共和国での開催を検討中である。それ以降は

3年に1回の大会開催となる。年会費50ユーロ（学生会員は25ユーロ）を払うと学会誌無料、大会参加費20%割引、出版関連では学会出版物が30%、St.Jerome 15%、Multilingual Matters 25%がそれぞれ割引となり、イントラネットでの学術情報にアクセス可能などの特典がある。IATISについて詳しくは www.iatis.org を参照されたい。

著者紹介：鳥飼玖美子 (Torikai, Kumiko) 日本通訳学会会長（第3期）、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科教授・委員長。国際翻訳家連盟（FIT）理事。日本翻訳家協会理事。日本コンGRES・コンベンション・ビューロー会長
